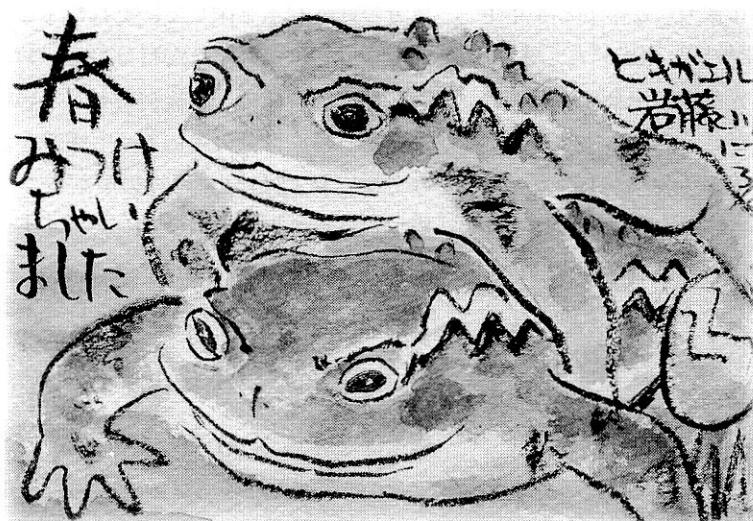


協議会ニュース

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2003.3



87号

●特集 「総合学習で学ぶもの」

「2つの学校での取り組み」P2

「総合学習を担当して」P3

「総合的な学習サポートについて」P4

◆協議会

パネル展示報告P4

「保険について」P5

◆支部トピックス

東三河支部/名古屋支部/尾張支部P6

◆フィールドだより

旭高原少年自然の家P8

相生山緑地P9

●総会案内P10

■会員リレーP11

■編集部だよりP12

協議会総会

とき：2003年3月21日（金）「春分の日」
ところ：なごやボランティア・NPOセンター
※詳しく10ページを御覧下さい。

総合学習で学ぶもの

協議会員の中で、「総合学習」に取り組んでいる方は数多いかと思います。今回は実際に取り組んでいる会員の方から、その体験談を報告していただきました。

2つの学校での取り組み

尾張支部 石井幸子

次の学校にて一年間に渡り、2年生と4年生を中心に行いました。学校別に報告いたします。

まず、学校の生徒、先生との出会い。明徳公園に遠足に来ていた事から話が持ち上がり、活動が始まりました。先生から相談があり、どのように総合学習を進めていくか？それまでの学校の取り組み方、事前学習と総合学習へ向けての学習の流れなどを話し合う。何度も学校へ出向かないより良い総合学習にはつながらないと思った。学校側は何をしたいのかがつかめないからです。

～本地が丘小学校～

● 2002年5月17日 2年生2クラス、テーマ：カブトムシ

カブトムシは一番身近な夏の昆虫であり、大好きな子が多く、飼育している子もいる皆よく知っている昆虫です。しかし、カブトムシだけでなく男女を問わず、虫のきらいな子も多く、幼虫をさわったことのない子が多数いた。カブトムシの一生を本を利用しながら学習し、持参した幼虫を2クラスに分けてあげる。そして幼虫をさわった事のない子供たちが、カブトムシの好きな子にさわり方持ち方を教えてもらいうがら、幼虫をさわらせて、手に持たせ、飼育箱へ移すまで、全員ができたことになった。すごくいやがっていた男の子や女の子が平気になってしまい、ケロッとして笑顔が出てきておもし

ろかった。大成功であった。

● 2002年6月3日 2年生2クラス、テーマ：自然林で自分の木を探そう

学校内に自然豊かな自然林があり、その中で自分の好きな木を探して、それにふさわしい名前をつける。それぞれが自分の想いのある木をみつけて、特徴をとらえ、おもしろい名前をつけ発表した。自分の木にとても愛着がわいたようです。おまけに「鏡で森の中を歩こう」3人1組で鏡を目の下に上向けにし、木を下から見る鏡を通して木を見上げる。不思議な感覚で3Dの様に思え、おもしろがり大うけであった。

～豊が丘小学校～

● 2002年5月27日 4年生2クラス、テーマ：明徳池と池の周りの生物

各班6～8班に分かれテーマごとに愛護会員の協力で学習する。明徳池の水質、その周りの植物、昆虫、鳥など夏だったので公園内の危険な植物や昆虫の話をする。

● 2002年10月8日 4年生2クラス、テーマ：竹



この竹が
これから
の総合学習に
広がりを見
せた。

竹藪(舌切
りすずめ)と竹林(かぐや姫)との違いから、昔
生活に一番密着していた植物であること、班別
にそれぞれがインターネットを利用し、調べて
きてからの学習であったために、内容の濃い学

習でした。インターネットが皆が使えるのだと少々うれしくなる。

この日は竹切りと竹ボーキづくり。初めてのこぎりを使用する子もいて、竹との取り組みが始まります。印のついた竹を切り、枝のはらいか方、竹の始末のしかた等を話し、切った竹はリヤカーにのる長さに切り、枝で竹ボーキを作った。見た目にはおそまつなホーキですが、自分で作ることに楽しみを見つけたようであつた。小雨が降っていたが、竹林では濡れることなく、作業ができたことをあとで話すとびっくりしていた。

● 2003年1月20日 4年生2クラス、テーマ:竹

秋の竹の続きであるが、一層内容が充実してきた。老人会の方との竹とんぼづくりから、竹炭の作り方、効用、竹のおもちゃ、建築利用、家庭用品、菓子(竹皮ようかんなど)、カブト

ムシのビートルマットの棚づくり、各グループ活動がおもしろいほど研究熱心で、総合学習の良さが際立って表れたようである。なにしろ竹に関しては、先生方が夢中になって楽しんで下さったことが、私にとって一番うれしかったし、明徳公園の違った利用法であることがわかつた。

この竹の件に関し準備が大変だった。赤ペンキで切ってよい竹に印をつけておく。前もって葉の落ちた竹の枝を用意しておく、竹炭を入手する(名東自然俱楽部よりわけてもらう)そして竹についての予備知識の勉強など。

まとめ

- ・総合学習の時間に何をどうするかを話し合う
- ・学校は何を学習したいのか重点を決めてもらう
- ・準備を十分にすること
- ・学校との出会いは自分から進んでする

総合学習を担当して

尾張自然観察会 斎竹善行

昨年、大口町と西春町の小学校の総合学習の授業で五条川の話をする機会を得ました。

大口町の小学校とは、それ以前にも2回、五条川に入って魚や水生昆虫などの生物の調査を行っており、今回も野外での調査を予定していました。しかし、雨が降ったため、急遽室内で話をするはめになり、準備不足を反省しました。自然観察指導員は、野外での指導には慣っていますが、教室での授業にも対応できるようにする必要があると感じました。

西春の学校では、最初から室内での話ということで、五条川の上流から西春あたりまでの川のようす、そこに生息している生物、水質の変化などについて、パワーポイントを使ってパソコンで見せることにしました。

どちらの学校も、総合学習の時間に、あらかじめグループごとに五条川について分担して調

べていましたが、最後のまとめの部分をどうしたらよいかわからなかつたようです。

本来、教師が総合学習のテーマについて十分理解して教えることが望ましいと思いますが、現実には環境について自信を持って教えられる方が少なく、外部に頼らざるを得ないということでしょう。

今後とも各地で、自然をテーマにした総合学習が見込まれることから、自然観察指導員としては、このような現場の要望に応え、地域での環境教育に取り組むことが重要になると考えられます。

幸い、自然観察指導員には教師の方もかなりみえることから、こうした課題への適切な対応方法を検討してみてはどうでしょうか。



総合的な学習サポートについて

名古屋支部 中賢治

平成14年度からの学校週5日制の実施にともない、「社会の変化に対応した新しい学校運営等の在り方」が打ち出されました。これにより、家庭や地域社会における子供の生活の充実がテーマの一つに掲げられ、自然との触れ合いの重要性も言われるようになりました。

週5日制や総合的な学習の時間が実施される2年程前に、地元の小学校の研究課題(テーマは「自分達で公園をつくろう」)をサポートしたことを見つかり、その後、「豊かな自然を次世代に引き継ぐ」活動を目的とした団体を設立し、自然観察グループや調査グループ・総合的な学習サポートグループなど八つのグループを作り、活動を始めました。現在、総合的な学習サポートグループは自然観察指導員をはじめとし、賛助者の協力を得て、中学校1校小学校7校(トワイライトスクール3含む)のサポート

を行っています。

授業の中での生徒たちの感性は素晴らしい、理屈抜きで自然の中に解け込んでしまいます。そこから発せられる言葉や表情は常に新鮮であり、逆に我々サポーターが教えられることもあります。サポーターの人数が限られているので、なかなか個別の支援に時間を取ることができませんが、子どもたち一人ひとりの発見や気づきを共有できるよう、我々も努力しています。

自然の中で生き生きとした表情を見せる子どもたちと接していると、学校授業の中の位置付けだけでなく、生涯学習的な要素をもたせた学校・家庭・地域の三位一体となった総合的な学習こそ今一番必要されているのではないかと、子どもたちに教えられているような気がします。

「協議会パネル展」報告

●2003年1月7日～13日

●栄セントラルパーク地下情報ギャラリー

協議会では、2003年1月7日から13日のあいだ、栄セントラルパーク地下情報ギャラリーにおいて、各観察会のパネルやちらしなどの展示を行った。短期間ではあったが、会社帰りのサラリーマンなどが興味深げに展示物をながめていく姿が見受けられた。

なお、当催しは1月13日付の中日新聞(市民版)でも紹介された。



保険について

事務局 佐藤国彦

自然観察会活動でも事故の可能性があり、時として善意で行っている活動でも損害賠償を請求されることがあります。事故が起こったときは、責任の問題は別として、当面は誠意をもって的確に対応することが第一ですが、後日のトラブルを解消するためにも保険に入っておくことも必要です。自然観察指導員の保険についてご存じでない方も多いようですので、制度の概要をお知らせします。

自然観察指導員以下として登録されている者については、NACS-Jで2種類の保険をかけています。この保険料は、毎年NACS-Jへ支払っている登録料(1,300円)から出されています。したがって、この登録料を支払っていない方は保険の対象になっていません。指導員の登録が中断している方は、いつでもその時点で復活することができます。

保険のひとつは、指導員自身の傷害保険で、自然観察会だけでなくその下見や調査など指導員活動とみなされる活動の際にケガをした場合に支払われます。しかし、自然に関する活動でも自分の職業などに関して行った場合は対象となりません。一応指導員活動で自宅から出て、帰るまでが対象となっています。

もうひとつは、観察会などで参加者が事故を起こした場合の損害賠償保険です。観察会の参加者がケガをした場合や活動の中で他人に損害を与えた場合で、指導員に過失があったと保険会社が認めたときに保険金がでます。大きな事故でなければ手続きはむづかしくないよう

す。
またこの他に、愛知県の協議会では関係する自然観察会に保険をかけています。協議会や支部が主催する観察会は、協議会で保険料を支払ってかけていますし、定例観察会などで支部の活動とされているものについては、保険料50円のうち、協議会で10円助成し、主催者40円(参加者から徴収していることが多い)負担で、まとめて損害保険に加入しています。保険料は実績払いにしています。保険は、毎年3月末ころに契約手続きをしていますので、希望があれば事務局へ連絡して下さい。保険料は、入院・退院の期間に応じて支払われます。これは、今までに、磯浜で転んでケガをしたもの、観察会終了直後に公園遊具でケガをしたもの、虫されと思われるものの3回ほどの適用事例があります。なお、損害保険で注意したいことは、有毒植物を食べたような外傷でないケースは適用されることです。

以上簡単に概要をまとめましたが、ご不明な点は事務局へお問い合わせ下さい。

トピックス

支部トピックス

東三河支部

●東三河支部総会の報告

平成15年度活動の要になる東三河支部の総会が、例年通り1月下旬に開かれました。

- ・とき…平成15年1月26日（日）午後3時より
- ・ところ…豊橋グランドホテル
- ・出席者…29名（他、委任状17名）
- ・総会終了後、同所で懇親会

グランドホテルとは、また豪勢な…いえ。会員の関本さんの職場なので、何とか便宜をはかっていただけるので…というわけです。普段はどっちかというとドタ靴にジャンパー風の会員たちも、シャンデリアやふかふかじゅうたんに一リッチな気分。折からの大安吉日で、お色直しの花嫁さんとすれ違い、「わーきれい」うつとり見送る人も。さて、総会議長は稻垣さん。梶野会長の挨拶に始まり、14年度の活動報告、15年度の役員人事、班編成と活動計画などが審議されました。

長年、3班編成でやってきましたが、なるべく多くの会員に活動してもらいたいという意味もあって、4班編成にしてみました。

吉祥山、江島の豊川、汐川干潟、沖野と観察地も山川海に配分されました。定例観察会は、

「吉祥山市民ふれあいの森」で3～12月に行うことになりました。

大きな課題は会の『N P O化』です。梶野さんの資料と説明があり、準備委員会を設立して認可に向けて進めることができました。

楽しみは会員研修。今年も雪に始まって海やら山やら、素敵な企画があうようです。総会が終わるとテーブルを囲んで懇親会。新加入の林さんをはじめ、全員ひとことずつの自己紹介。笑いや拍手のなごやかなひとときです。久し振りの人もいて、あちこちで談笑の輪が広がります。人それぞれ、貴重な情報交換もあって。有意義に終わりました。



東三河総会のようす

名古屋支部

●名古屋支部総会報告

名古屋支部 滝田久憲

平成15年度の名古屋支部の総会が1月18日（土）午後2時から名古屋市教育館で開催されました。当日の参加者は15名で、山田支部長の司会で議事が進行されました。最初に平成14年度の事業報告がなされ、新指導員の立ち上げで11か所に増えた支部主催の定例観察会や、

昨年度に引き続き行ったスタンプラリー、昨年9月23日に市の農業センターで行われた支部結成20周年記念行事、さらにそれに向けての市内6か所でのプレ自然観察会のことなどが話されました。また、会計の山原さんから、平成14年度の収支決算の報告と平成15年度の予算の提案がなされました。続いて、平成15年度の役員改選が行われ、次のような新体制となり

ました。

支部長 滝田久憲

副支部長 各定例観察会代表

会計 石川登志子、山原照生

事務局長 巾賀治

さらに、平成15年度の事業としては、11か所の定例観察会の実施、県協議会統一事業である「ふるさと自然観察会」を6月7日(土)に名城公園で行うことなどが決まりました。また、20周年記念行事のような支部全体で取り組め

る新しい事業を考えようということになりました。

総会終了後は場所を変えての懇親会が催され、酒を酌み交わしながらの熱い自然談義がなされました。

尾張支部(尾張自然観察会)

●総会報告

平成15年1月11日、犬山市国際観光センター"フロイデ"において尾張自然観察会(尾張支部)総会を行いました。前年度事業報告や会計報告などにつづき、今年度の事業計画について活発な意見交換がなされました。

今年も前年に引き続き、定例観察会とは別に受託観察会や一泊研修、「ふるさと親子自然観察会」(森林公園)などが計画され、より一層、会員の活性化を望んでいます。

総会後は懇親会を行い、フィールド情報や近況報告など、ざっくばらんな話題で親睦をはかりました。

●尾張自然観察会ホームページ

尾張自然観察会ではホームページの運営を行っています。このホームページは「自然保護」No.471(P37)でも紹介され、全国各地からアクセスしていただいております。なお、当ホームページでは「生物暦」を募集しております。みなさまの情報をお待ちしております。(「協議会ニュース84号8ページ参照)

(<http://www006.upp.so-net.ne.jp/symbio21/>)

●新年度を迎えて

尾張自然観察会会长 長谷川洋二
「尾張自然観察会(尾張支部)は、尾張の9の地域で観察会活動を行っています。そうした活動の中で、観察会参加者はもちろん、行政や観察会場の地域の人たちと仲良く連携をとっていくことが重要だと思っています。観察場所の自然をより多くの人々に知っていただくことが、尾張地域の自然を守っていくことになると思っています。ぜひ、愛知の自然に多くの人たちが親しんでいただけるように、県協議会でもこうした活動のネットワーク化を推進していくとともに全国に発信していただくような活動をお願いします。」

※尾張自然観察会会員の方へ

新年度を迎え、会費の振り込み時期がやってきました。振り込みは尾張自然観察会会費と協議会費の両方必要です。未納の方はお早めに!(会通信「尾張自然観察会」No.1参照)

※次号、知多支部、西三河支部、奥三河支部からの「支部トピックス」を掲載予定です。

「旭高原少年自然の家」の自然・その2

名古屋支部 今井 隆(自然の家勤務)

愛知県旭高原少年自然の家は岐阜県境の東加茂郡旭町にあり標高は620mです。本稿は平成14年1月発行の『協議会ニュース』80号掲載分の続編(秋冬版)という形になります。

(愛知県旭高原少年自然の家ホームページ <http://www6.ocn.ne.jp/~ashkogen/>)

ウツギ属ではなくアジサイ属の白いノリウツギの最盛期が過ぎ、夏鳥の青いオオルリやホトトギスの鳴声が聞かなくなる9月頃、道端にはオトコエシが目立ち始めます。秋の七草の黄色いオミナエシはありません。つる性の赤い花のクズや白い花のボタンヅルが咲き、秋の七草であまり見られなくなつたフジバカマもある所にあり、色々な蝶が止まります。同時にピンク色のヤマハギが道添いにしだれるよう咲き楽しませてくれます。10月になると、ササユリが咲いていたあたりに葉がスペード型のシラヤマギクが咲き、ギザギザ葉のユウガギクや葉の基部が耳型で黄色花のヤクシソウが見られます。外来種のセイタカアワダチソウは旭高原にもあり強い繁殖力です。

秋は紅葉の季節で、赤いイロハモミジは遠くからでも目立ちます。ただ、人工林も多くヒノキやスギの緑色と紅葉の赤と黄のコントラストの方が目立つと言う方がいいかもしれません。人工林はご存知のように外国の安い輸入材に押され、充分に手入れされているとは言えません。ドングリはコナラが一番多く、アベマキ、アラカシ等があります。しかし、実のなり方は名古屋より劣ります。名古屋の猪高緑地や平和公園等のアベマキは、真ん丸く大きいものがたくさん落ちていますが、旭高原はそれよりやや小さめで数も少なく、敷地内にあるアラカシのドングリは特に少ないです。

旭高原では色々な動物達と出会います。よく親子でいて道を横切るイノシシ、走っても耳でわかるノウサギ、矢作ダム辺りで夜に出会うニ

ホンイタチなどです。リスは松ボックリにある種子を食べます。その食べ跡がエビフライに似ているので、その食べ残しの芯を「リスのエビフライ」とよく言います。まず、それを探してリスのいる場所に検討をつけます。また、リスは地面を走っている所をイメージしますが、多くは木の上にいるのです。よって、「リスのエビフライ」を見つけたら、静かに耳を澄まします。もし、どこからか葉に何か落ちているような「ポト…ポト…」という音が聞こえたら、ゆっくりその方に近づいて行き木のすーと上方を見てください。リスが松ボックリの種を食べ、破片をポトポト落としているのです。私は顔に破片があたりながら真上のリスを観察したことがあります。首が上に向かいっぱなしで痛くなりますが…。リスが鳴いたんですよ！、走りながら。サルとコゲラを混ぜたような泣き声です。

また、隣の元気村の裏道には皮が剥がれたようなリョウブの木を時々見かけます。これは、ニホンジカの食跡と思われます。元気村の牧草地におそらく冬は餌が少なくなるので現れ、多いと20匹ぐらいになります。シカは私の姿を見つけると、全員がこちらを向きます。そして、しばらくすると「俺達に害を与えないんだー」と思われ(?)、また牧草を食べ始めます。私がまた動くとまた一齊にこちらを向き…と「だるまさん転んだ」状態になるのは面白いです。また、ある日の夕方、車を走っていたら、1匹のメスがゆっくり横切りました。停車してしばらく見ていると、バックミラーに何か大きなものが見えたのです。振り返ると、大きな角のオ

スのニホンジカが車のすぐ後ろを通っていたのです。結局のところ、私はデートの邪魔をしたようですね…。ニホンジカが見られるようになると「冬が来たんだ…」、見られなくなると「春になったんだ…」とシカで季節がわかるというのが旭高原です。雪が降った後はフィールドサイン(足跡)を探します。自然の家にリス、ウサギ、シカ等の動物が通っているのがわかり、なぜか下るほど足跡は少なくなります。偶然でしょうか？。

鳥は冬になるとすこし変化が現れます。アヒルのようなカケスの鳴き声が聞こえ、ベッカム頭のカシラダカ、そして、高地にいるイワヒバリ、暗い林を好むクロジやシロハラもこの冬に確認出来ました。また、餌台を作り、しばらくは何も来ませんでしたが、今ではシジュウカラ、ヤマガラ、メジロは常連で、カケスが時々現れ始めています。ヒヨドリは非常に用心深くなかなか手を出しませんでしたが、最近、他の鳥を

追い出そうとしているようで、今後の対策を検討中です。2月下旬頃にはアオゲラの「ピュー ピュー」という初鳴き？を聞き、3月になるとホオジロやシジュウカラ等の繁殖期の鳴き声が聞こえます。また、3月中旬には旭町役場付近にツバメが渡来し、鳥たちは子育ての時期に入ります。

ある自然案内人が「鳥と図鑑が一致しない時は鳥の方を信じる」と言いました。私も似たような姿勢で、旭高原にいるという鳥たちをあげているものがあります。しかし、私の目か耳で確認できた鳥のみをロビーで紹介しています植物も同様です。また、たとえ本には書いていないことであっても、ここが旭高原の自然ですから…。これが自然のおもしろい所ですね……。

相生山緑地3月観察会に参加して

(2002年の記録より。今年はどうかな?)

「あなたは何に春を感じましたか？」そんな語りかけで観察会は始まりました。土筆、桜、風、花粉症、ヒサカキの花の匂い。なるほど、頷くものばかりです。そういえば、2月から匂うヒサカキは、一番敏感に春をキャッチいているのでしょうか。

3月の観察会のテーマは、タマゴ。ヒキガエルはすでにオタマジャクシに孵化り、残念ながら卵を見ることが出来ませんでしたが、4種類のカマキリの卵が見つかりました。枯れた草の茎にあったのは、スポンジのようなオオカマキリの卵のうです。地上5cmから40cm位の所に多くついていました。こんな低い位置に産むのは雪が少なく、春が早いと予知していたようです。ふ～ん。確かに今年の春は早い。5月

尾張支部 岩沙 雅代

に、ざわざわ幼虫が孵化する誕生シーンが見たものです。

珍しいシロバナタンボボを見せてもらい、原っぱにやってきました。回りの木々を見渡し、皆で緑色の種類を数えてみました。さつき見た山桜より少し赤っぽい緑、透きとおった緑、食べてしまいたくなる芽吹きの緑、微妙に色分けして自己主張しています。木の名前が分からなくても、こんな風に自然に親しんでいけるなんて新鮮な驚きでした。おまけにアカゲラが、「ちょっとだけよ」と赤いおなかを見せてくれました。なんてラッキー！

桜は見頃。まだ冬眠中の私の感性を揺さ振り起こしてくれた指導員の皆さんに感謝。

協議会総会のご案内

◆とき 平成15年3月21日(金)「春分の日」

◆ところ なごやボランティア・NPOセンター
(伏見ライフプラザ12階)

地下鉄「伏見」駅6番出口下車 南へ徒歩6分

(「御園座」の南、「白川公園」の西)※12ページ地図参照

～当日の予定～

- 10:30～ 話し合おう、あんなこと・こんなこと
- 12:00～ 食事＆フリーマーケット
- 12:45～ 受付
- 13:00～ 講演会 宇津野常人氏
- 14:15～ 総会
 - 1.会長あいさつ
 - 2.第1号議案 平成14年度事業報告
 - 3.第2号議案 平成14年度決算報告・監査報告
 - 4.役員の退任及び選任
 - 5.第3号議案 平成15年度事業計画
 - 6.第4号議案 平成15年度予算
 - 7.その他規約改正について意見交換など
- 16:50～ 茶話会
 - 部会のPRや各自の近況報告、情報提供などを自由に!
- 17:45 終了 総会終了後、有志による懇親会を予定

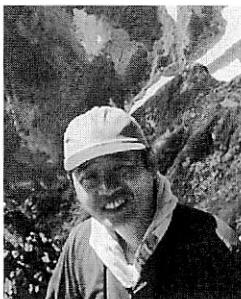
～お願い～

- もらひもので自分は使わないものや、自分では使用しなくなったがまだ充分使用可能なものなど、フリーマーケットで提供できるものをお持ちの方は、当日持参願います。(自然・アウトドア関連の本やグッズ、自然素材の手作りクラフトなど)
- 茶話会では、お菓子は協議会で準備しますが、お茶・ジュース等の飲み物は、各自持参して下さい。

会員リレー

※このコーナーは会員のみなさまをリレー形式で紹介していきます。

【高谷昌志】(たかたにまさし・尾張支部)



指導員になったのは子育て真っ盛りの8年前。親子の興味が一致し、「いっしょに虫を覚えよう」と家族で図鑑を持って出かけたり、観察会に参加したり川遊びをしたりと楽しい時を過ごしました。自然観察と出会ったのは本当に幸運でしたね。

【吉村暁夫】(よしむらあきお・知多支部)



星が好きで地学を専攻したのに、気がついてみれば地質にどっぷりはまりこんでいました。それも、地形の険しい鳳来寺山周辺地域の地質です。自分の手と足だけで崖をよじ登り、「こりやもうだめかな」という思いを何回もし、気がつけば調査開始から27年になりました。

【星野芳彦】(ほしのよしひこ・東三河支部)



最近、私は、東三河自然観察会の「夜の男」と呼ばれているかもしれません。というのは、この3年間、『夜の自然観察会』の担当が続いているからです。そんな中で感じたことです。

『バットディテクター』をご存知ですか？超音波を人間の可聴音に変換する電子装置です。

して4年前、土日休みの勤務になったのを機会に守山区の小幡緑地で定例観察会を開始。参加者といっしょに感動すればいいと下見なしの気軽なウォッチングです。この1年もチョウトンボ、ハンミョウ、タカの幼鳥などが「発見」できわくわくの連続です。これからも楽しい観察会をしていきたいです。

★バトンを渡す人

次は尾張支部の松尾初さんお願いします。

た。仲間と一緒に歩く楽しさや、人の手があまり入っていない自然に接することができたことも、長続きした理由かもしれません。調査を始めたころは、岩石ばかり見ていましたが、どうせ歩くなら、鳥も花も樹も虫もついでに魚も見ようと欲が出てきました。

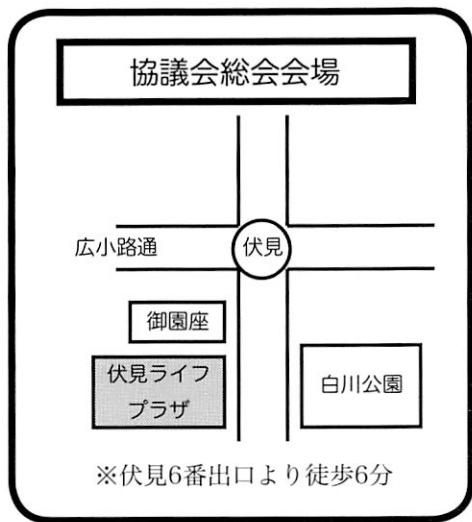
★バトンを渡す人

そんな時、自然観察会のことを教えてくれたのが、藤原優年さんです。実は、私の教育実習の指導教官でもあり、職場の先輩でもありました。後輩からのバトンパスです。

これが実に面白いんですよ！飛んでいるコウモリにむけると彼らの出す超音波が聞こえます。種類によってその周波数が異なるので暗くても種の同定ができる、しかも、餌の昆虫を捕まえる瞬間も音の変化で判る優れものです。夏～秋の夕方にこの装置があると楽しくて、ついつい道草をくってしまいます。

★バトンを渡す人

では、リレー投稿のバトンを「東三河支部の滝崎吉伸さん」にお渡しします。ヨロシク！



行事予定

東三河の観察会予定

4月13日(日)午前9:30(予定)

「吉祥山の春の花」

豊橋・吉祥山市民ふれあいの森にて

問合せ: 東三河自然観察会 柴田 論子さん

Fax (0532) 64-2339 (Faxのみとなります)

●編集後記

今月の表紙はヒキガエル。地元の西尾の里山で1月下旬にアカガエルのつぶつぶの卵を、2月上旬にはそのヒキガエルの管状の卵を見つけました。子供の頃で感じていてなんてこはない自然の季節感・生命を協議会ニュース作成参加して再び触れる事ができ感動!

さて、「その『協議会』ってなんだろう」って改めて聞かれると…。って思う方は、是非『総会』に参加されてみてはいかがでしょうか?これまでの疑問が納得!できるはずです。

(符川真弓)

【今号の表紙】

「春、みつけちゃいました」

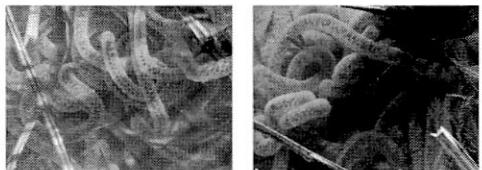
尾張支部 岩沙 雅代

●スタッフ

石井幸子、石田晴子、岩沙雅代、鬼頭弘、国安俊夫、近藤記巳子、佐藤国彦、中西たかお、浜口美穂、符川真弓、降幡光宏、古川俊江、横井邦子、横田法子、吉田裕孝

スタッフ募集中!!

(興味のあるかた、ご連絡ください)



※編集部では、支部の近況報告や観察会レポート、「こんなことを考えています(しています)」など、みなさまからの情報を集めております。ご協力していただける方は、ぜひ、編集部までご連絡ください。

●みなさまのご意見・ご感想をお待ちしております。

愛知県自然観察指導員連絡協議会 「協議会ニュース」編集部

491-0057 愛知県一宮市今伊勢町宮後

字西松山43-1 大野荘B-106

吉田裕孝 TEL/FAX 0586-43-3829